

令和3年度 第3回 沖縄観光2次交通の利便性向上に向けた検討委員会

観光系路線バスの コンタクトレス決済導入に係る実証

令和4年3月15日

1. 実施概要

❖ ウィズコロナ・アフターコロナの新たな生活様式への対応及びインバウンド需要回復を見据え、観光系路線バスにおいて、令和4年2月1日から、コンタクトレス決済（非接触型決済）の導入に関する実証を開始した（実証期間：～令和4年3月24日）。

対象とする観光系路線バス会社

- ・ 主に那覇空港を発着又は経由する観光客の利用が多い下記の5事業者とした。
また、各社の運行車両台数を考慮し協議のうえ、本実証では下記に示す台数の決済端末を設置した。

対象とする観光系路線バス会社	対象とする路線	今回の設置台数
東京バス	2路線 ・ハーレーエクスプレス ・ウミカジライナー	8台
カリ一観光	3路線 ・北谷ライナー：瀬長島～那覇空港～パルコシティ～北谷 ・パルコシティシャトルバス：おもろまち駅～パルコシティ ・瀬長島ライナー：瀬長島～那覇空港～おもろまち駅 (豊崎ライナー、美ら海ライナーは運休中)	3台
沖縄エアポートシャトル	2路線 ・リゾートライナー ・エアポートライナー	7台
沖縄バス（リムジンバス）	空港リムジンバス（全路線） ※空港リムジンバスの沖縄バス販売所窓口へ設置	4台
やんばる急行	2路線 ・空港線：那覇空港～運天港 ・四島線：瀬底島～古宇利島	8台
合計		30台

1. 実施概要

導入したコンタクトレス決済の概要

- 車両の運賃箱付近や販売所窓口（沖縄バス）に決済端末を設置した。
- 本事業ではクレジットカードのタッチ決済（Visa）を全対象事業者へ導入した。
- また、QRコード決済については、各社ごとのニーズに合わせて、個別に検討し、導入した。

クレジットカードタッチ決済(Visa)



本実証実験において導入した決済手段

対象とする観光系路線バス会社	タッチ決済 (Visa)	QRコード決済
東京バス	○	○ (PayPay、Alipay)
カリー観光	○	○ (PayPay、Alipay、J-Coin Pay)
沖縄エアポートシャトル	○	—
沖縄バス（リムジンバス）	○	—
やんばる急行	○	—

* やんばる急行は本実証前よりクレジットカードによる決済や電子マネー等に独自で対応。また、沖縄エアポートシャトルは実証前よりQRコード決済（楽天ペイ、Alipay、WeChatペイ）に独自で対応。

【参考：コンタクトレス決済のUI（画面イメージ）】

①スタート画面

【乗車時に運賃をお支払いする場合】
・降車バス停を選択してください。

【降車時に運賃をお支払いする場合】
・乗車バス停を選択してください。



②ご利用人数の選択

・次に、ご利用になる人数を、画面の「+」「-」ボタンで選択してください。（初期状態は「大人1名」選択済です）

・ご利用人数・支払い合計額を確認し、画面右下の「支払い」ボタンをタップしてください。



③決済方法選択画面

- ・決済方法のボタンをタップしてください。
- ・Visaのタッチ決済の場合には、「クレジットカード決済（タッチ決済）」をタップしてください。



④決済媒体の読み取画面

【Visaのタッチ決済の場合】

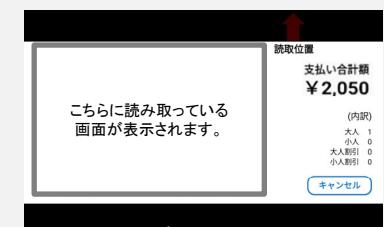
・画面が表示されましたら、タッチ対応のクレジットカードを画面上のマークにタッチして完了です。

【QRコード決済の場合】

・画面が表示されましたら、「読み取位置」にQRコードをかざして完了です。



【Visaのタッチ決済の場合】



【QRコード決済の場合】

2. 実施状況

利用状況（期間：2月1日～3月13日）

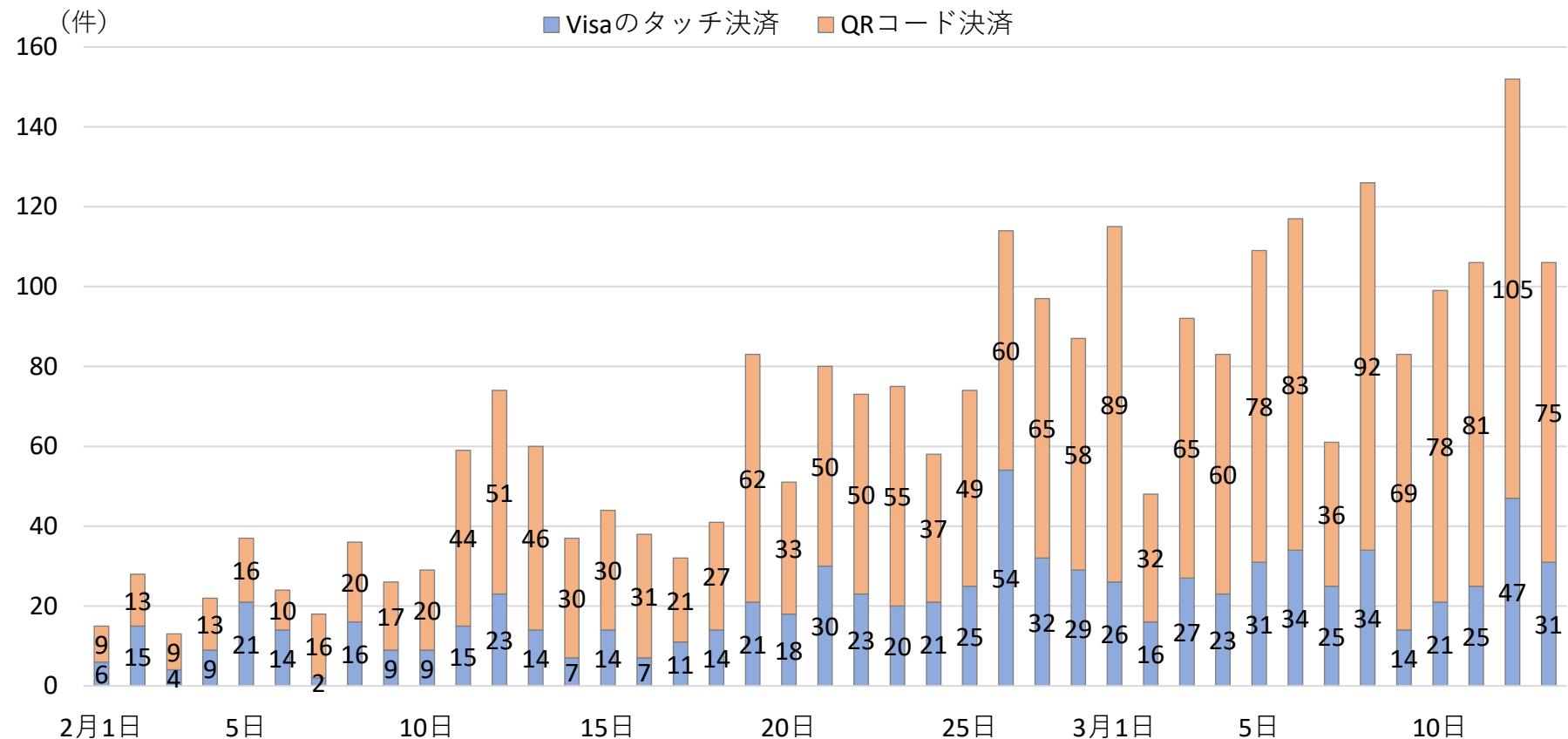
2月1日～3月13日までの利用件数（バス会社5社の合計）は、2,722件となっている。

内訳は、Visaのタッチ決済は837件、QRコード決済は1,885件となっている。

利用件数：計 2,722件

【今回導入した端末による決済の件数（期間：2月1日～3月13日）】

- ・Visaのタッチ決済： 837件
- ・QRコード決済： 1,885件



2. 実施状況

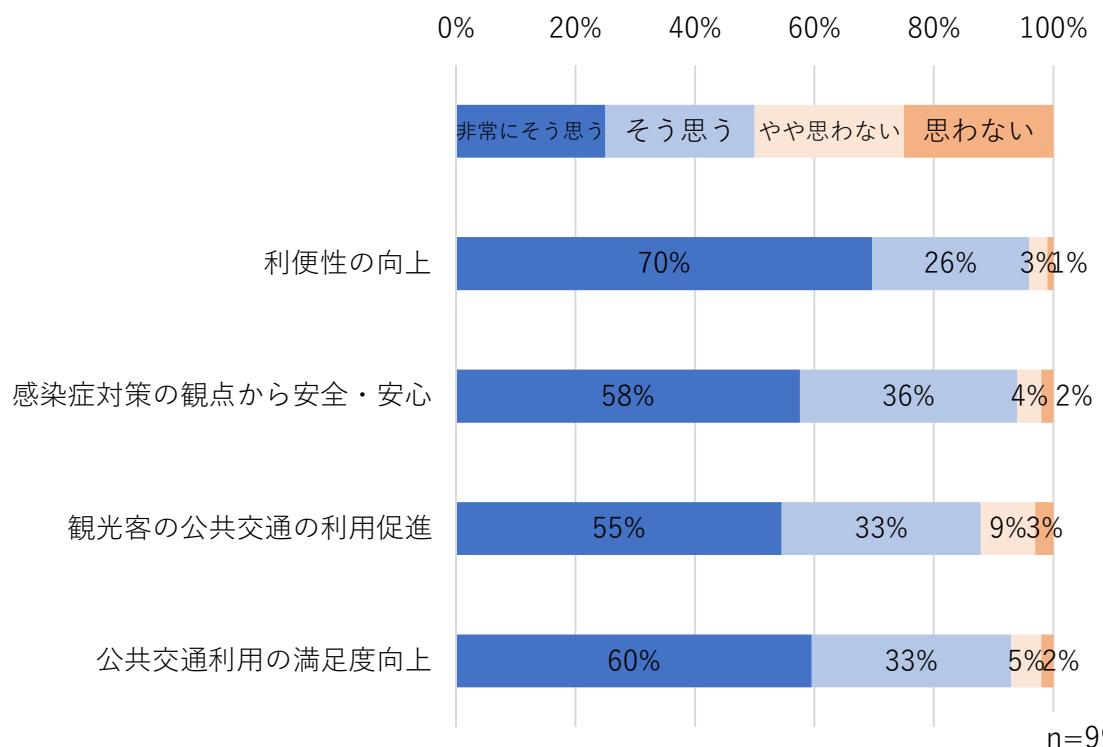
コンタクトレス決済導入に係るアンケート調査結果

- 対象事業者の利用者を対象として実施しているアンケート調査の結果を以下に示す。

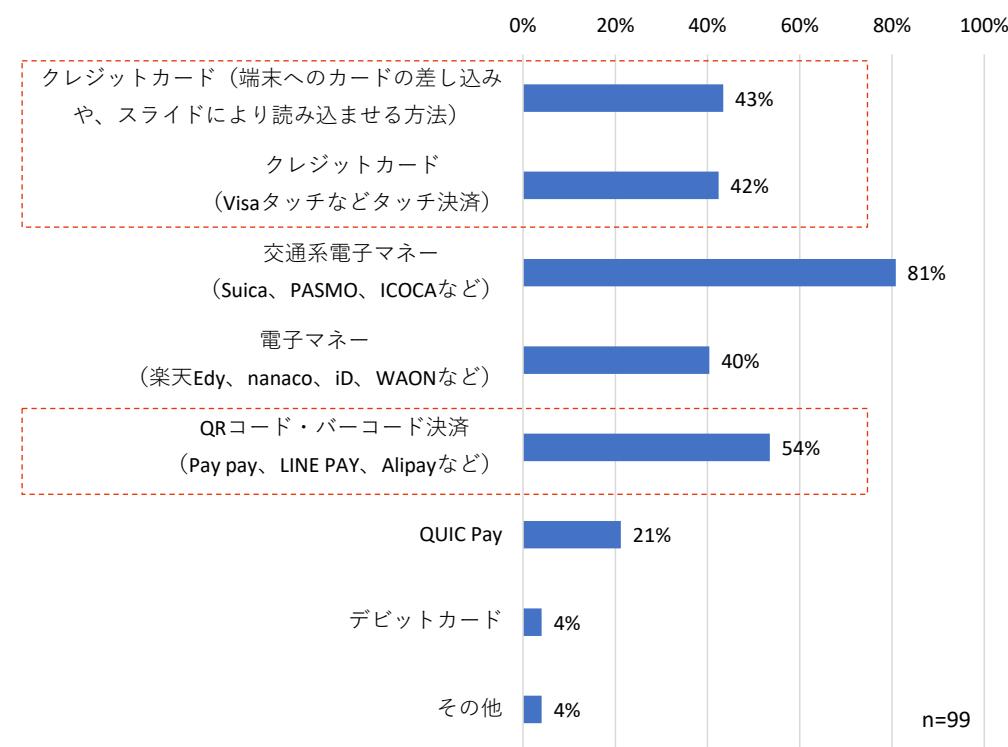
コンタクトレス決済の普及による有効性について、4つの観点において「非常にそう思う」または「そう思う」の回答がどれも80%以上となっており、バス利用者もコンタクトレス決済に関心があり有効であることがわかる。

県内の公共交通の導入を進めて欲しい決済方法について、「交通系電子マネー」が81%と最も多く、次いで「QRコード・バーコード決済(54%)」、「クレジットカードによる決済(42~43%)」となっている。

【コンタクトレス決済の普及による有効性】



【県内の公共交通の導入を進めて欲しい決済方法】

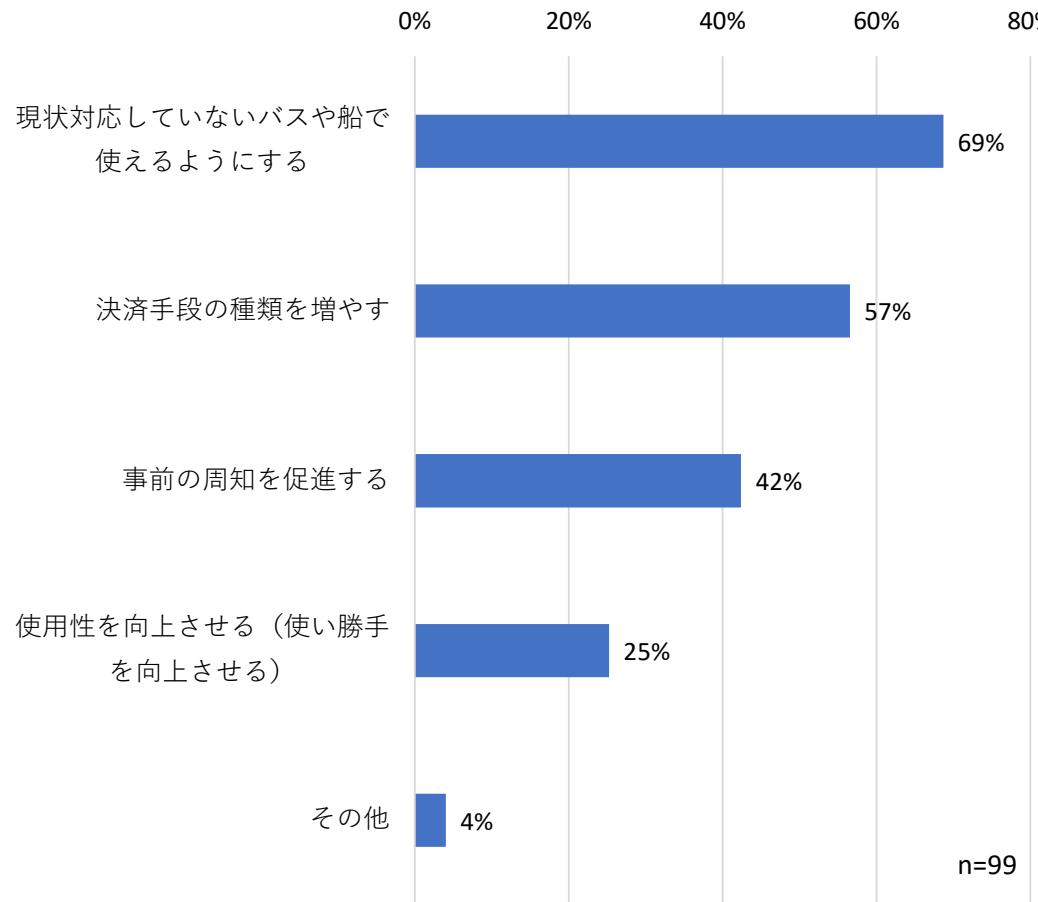


2. 実施状況

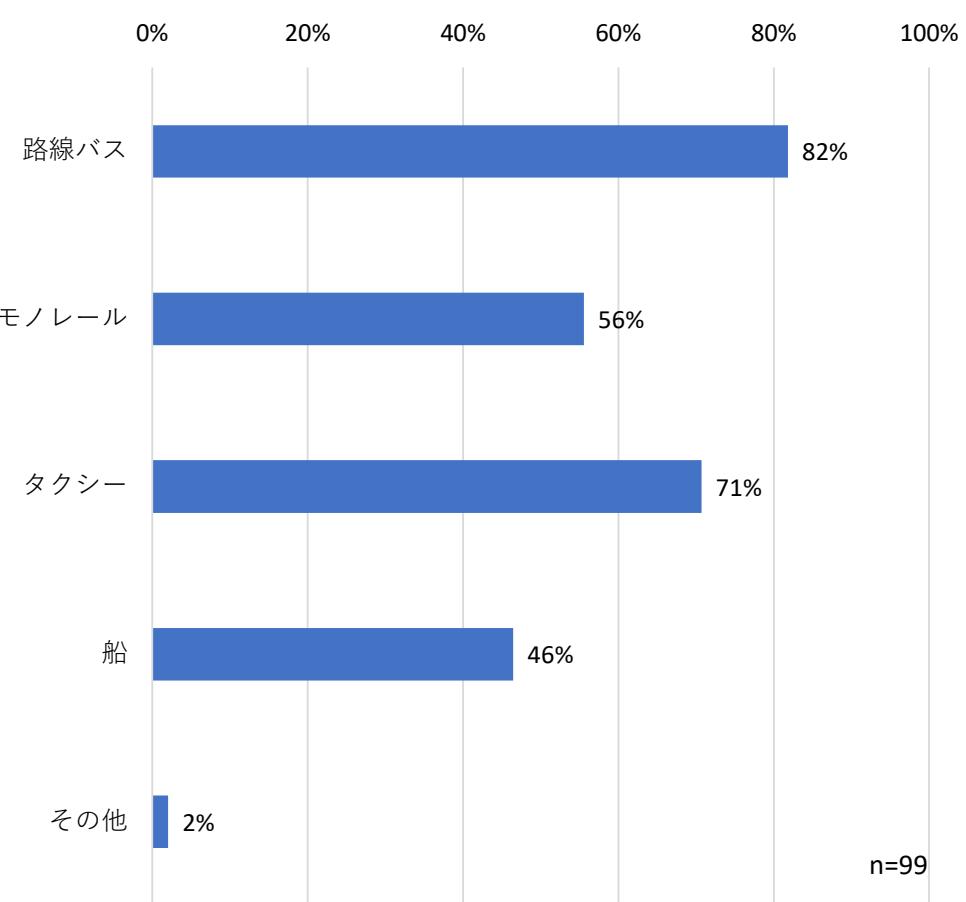
コンタクトレス決済の取組を進めるうえで重要なことについて、「現状対応していないバスや船で使えるようにする」が最も多く69%、ついで「決済手段の種類を増やす」が57%と多い。

コンタクトレス決済を導入して欲しい交通機関について、「路線バス」が82%と最も多く、次いで「タクシー」が71%と多い。

【コンタクトレス決済の取組を進めるうえで重要なこと】



【コンタクトレス決済を導入して欲しい交通機関】



2. 実施状況

問題・課題および対応状況等

事業者からの声をもとに整理した本実証に係る問題・課題および対応状況等について示す。

【周知・広報】

- ・運賃「前払い」の路線等においては、コンタクトレス決済ができることに気づかずに乗車し、現金で支払いをしている可能性がある。

⇒事前の周知・広報の強化等について検討するとともに、バス車内だけでなく、バス停等への案内掲示を検討。

【バッテリー・充電等】

- ・決済端末のバッテリー、充電等についていくつかの報告をいただきており適宜対応を実施。

⇒決済端末のバッテリーが最終便まで持たず、夕方頃に電源が切れてしまうため、一部のバス会社では、車内電源を使用し常時充電しながら運用。

⇒一部の決済端末において、充電が仕様の時間もたない、電源がつかない等の報告があり、充電については事業者側での充電方法の問題として解決。電源がつかない端末についてはメーカーにて修理を実施。

【決済時間】

- ・Visaのタッチ決済、QRコード決済とともに、支払いに時間を要するケースがある等の報告をいただいている。

⇒利用者による操作（乗車停留所の選択⇒決済方法の選択⇒決済）に時間を要しているケース、通信環境の影響で遅くなるケース等があると考えられるが、改善に向けて確認・対応を進めている状況。

【端末増設・効果検証】

- ・今回の端末機器は携行式であり、今年度の事業においては、1日の中で同時に運行する車両台数の機器を各社に導入しているが、遅延等により機器の引き渡しが難しい等の理由により、機器の追加ニーズがある。
- ・また、まん延防止期間中に実証を開始したため、現時点で利用者が少ないこともあり、効果検証にもう少し時間が必要との意見をいただいている。

3. 今後の展開

- ・本実証は期間を2月1日から3月24日までとして開始した。今年度は新型コロナの影響により、実証期間が短くなったことや、まん延防止等重点措置下での実証開始となつたため、充分な効果検証が行えていないことから、次年度も引き続き実証継続を予定する。
- ・また次年度事業においては、決済端末を追加して取り組むとともに、充分な実証期間を確保して、課題の把握や検証を行い、自走化に繋げたい。
※3月24日以降の実証継続の意向については、各事業者に確認のうえ対応する。
- ・また、次年度実証を継続する中では、Visa以外のタッチ決済への対応等も検討を進め取り組むものとする。